

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 ムンド・デ・アレグリア学校

1. 事業名称

地域の一員としての外国人のための日本語教育体制整備推進事業

2. 事業の目的

本業務は、地域の一員として生活する定住外国人等を対象に、自治体をはじめ多くの機関との連携により、日常生活に必要な生きた日本語に触れ、日本語運用能力を学習できる機会を提供する。また、地域住民を対象に、外国人と交流できる機会を創出し多文化共生に寄与する。そして、本業務の取組をシンポジウムにおいて広く地域に発信することにより、さらなる地域の日本語教育体制を整備・推進することを目的とする。

3. 事業内容の概要

1) 日本語教育体制整備推進のための活動実施

- ①大学生による活動グループの立ち上げ及び日本語交流活動
- ②地域住民による絵本読み聞かせグループ立ち上げ及び活動・日本語交流活動
- ③地域との交流活動(文化活動・防災訓練など)への参加による実践型日本語学習機会等の創出

2) 協議会の開催

3) シンポジウムの開催

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年7月9日 13:00～15:00	2時間	外国人学習 支援センター	大軒 孝幸 坂田 英夫 佐藤宏明 鈴木 秀志 矢野 彰 高畑 幸 松本 雅美 岡 則子 村上 将隆	事業内容の検討	・活動内容についての情報共有 ・自治体や地域住民と連携・協力体制をどのように 整備していくかの意見交換
2	平成25年2月12日 15:00～16:00	1時間	外国人学習 支援センター	坂田 英夫 佐藤 宏明 高畑 幸 松本 雅美 岡 則子 村上 将隆	事業内容の報告と課題の 検討・シンポジウム振り返り	・事業内容についての報告 ・課題解決にむけての検討 ・シンポジウムの成果と課題点 ・今後の活動予定について

【写真】



5. 取組についての報告

○取組1:協議会設置

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本事業で取り組む活動内容・成果・課題を報告することで各活動の活動内容を共有し、自治体・自治会・学校・関係機関・活動団体同士の連携・協力の体制を整備・推進する。

(2) 取組内容

- ① 自治体・地域自治会・学校・日本語教育関係者を協議会委員とし、協議会において各取組の活動内容・成果・課題を報告することで各活動の活動内容を共有する。
- ② 活動に関して協議会委員よりアドバイス・ご意見をいただくことでより活動内容の充実、活動団体同士の連携・協力を図る。
- ③ シンポジウム開催についての検討を行う

(3) 対象者

自治体・地域自治会・学校機関関係者・日本語教育関係者・取組の活動者

(4) 参加者の募集方法

個別に依頼

(5) 参加者の総数 23人

(出身・国籍別内訳 日本 23人)

(6) 開催時間数(回数) 3時間 (全2回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	協議会概要
1	平成24年10月30日 13:00~15:00	2時間	外国人学習支援センター	23人	日本(23人)	協議会	取組の成果発表・課題検討
2	平成25年1月28日 13:00-14:00	1時間	外国人学習支援センター	8人	日本(8人)	協議会	取組の成果発表・課題検討・シンポジウム検討

日時	平成24年10月30日(火) 13:00~15:00
出席者	坂田 英夫、佐藤 宏明、鈴木 秀志、矢野 彰、高畑 幸、青山 知靖、山下 文彦、藤田 健次、米勢 治子、長邊 成章、青山 美紗、大勝 南、熊田 仁美、鈴木 琴音、早川 奈穂、深澤 まきか、山下 佳那子、片平 遥筒井 結紀、野村 満里奈、松本 雅美、村上 将隆、岡 則子 計23名
1	開会のことば
2	協議会委員紹介
3	文化庁の日本語事業について説明
4	今年度の委託事業について説明
5	活動団体中間発表(大学生との交流活動)
6	活動団体中間発表(絵本読み聞かせ交流活動)
7	活動団体中間発表(地域交流交流活動)
8	協議会委員発言
9	意見交換会
10	閉会のことば

日時	平成25年1月28日(月) 13:00~14:00
出席者	坂田 英夫、佐藤 宏明、高畑 幸、青山 知靖、長邊 成章、松本 雅美、村上 将隆、岡 則子 計8名
1	開会のことば
2	活動発表(大学生との交流活動)
3	活動発表(絵本読み聞かせ交流活動)
4	活動発表(地域交流交流活動)
5	シンポジウム内容・会場設営・進行についての検討
6	シンポジウム地域住民集客についての検討
7	閉会のことば

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

自治体・学校関係者・自治会の方に協議委員として参加していただき、取組の活動内容・成果を共有し、課題を検討した。結果、本事業の集大成であるシンポジウムが充実した内容となった。また、協議会において活動内容を共有することによって、活動団体同士が連携・協力することもできた。

(10) 改善点について

年明けから年度末にかけては自治体・学校関係者・自治会の方々が多忙のため日程調整が難しく、結果、第2回協議会の出席者が少なかったため、協議会開催の時期を考える必要がある。

○取組2:シンポジウム開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本事業の活動内容・成果について、広く地域住民等に周知し、多文化共生推進に寄与する。

(2) 取組内容

取組の成果についてシンポジウムを開催し、多文化共生への理解を深め広く地域住民に周知し、より多くの地域住民の方々に関わってもらう。

(3) 対象者

地域住民・自治会関係者・ボランティア団体・学校関係者・大学生・日本語教育関係者等

(4) 参加者の募集方法

日本語教育関係者・大学生にチラシ配信
自治会関係者・ボランティア団体会員にチラシ郵送
公共の場にチラシを置く(外国人学習支援センター・アクトシティ他)

(5) 参加者の総数 65 人

(出身・国籍別内訳 日本 63人 ブラジル 1人 ペルー 1人)

(6) 開催時間数(回数) 2 時間 (全 1 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	概要	講師
1	平成25年2月12日 13:00~15:00	2時間	外国人学習支援センター	65人	日本(63人)、ペルー(1人)ブラジル(1人)	文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業及び、今年度本団体で行ってきた活動の成果を参加者に周知	パネリスト 高畑 幸 青山 知靖 長邊 成章 松本 雅美

文化庁委託事業
 地域の一員としての外国人のための
 日本語教育体制整備推進事業シンポジウム開催
 ムンド・デ・アレグリア学校

【日時】平成25年2月12日(火)午後1時~3時

【会場】浜松市西区雄踏町宇布見 9611-1 ムンド・デ・アレグリア学校

【内容】平成24年7月より、ムンド・デ・アレグリア学校にて取り組んでまいりました日本語教育体制整備推進事業を総括すべく、シンポジウムを開催し、活動成果発表・意見交換を行います。ご多忙と存じますが、お一人でも多くの方のご参加を、心よりお待ち申し上げます。

【お申し込み】お電話またはメールにて、シンポジウムご参加の旨を担当までご連絡くださいませ。

シンポジウムの概要は以下の通りです。

ムンド・デ・アレグリア学校松本雅美校長 母語教育と日本語教育の大切さに関する考察
 静岡県立大学国際関係学部生との日本語交流活動成果発表
 読み聞かせボランティア「みかんの花の会」成果発表
 地域交流活動に関するまとめ
 本年度の成果と課題
 意見交換

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

普段はあまり外国人と接点がない地域住民の方にもシンポジウムに参加いただき、文化庁の日本語教育事業の目的及び本事業の取組の目的・内容を発信することができたことは成果として大きい。また、地域住民の方々からは自分たちができる活動に参加したいという声も聞くことができた。このように草の根レベルで行っている活動を定期的に発信できる機会を設けることで、市民レベルでの多文化共生を推進していくことができる。

(10) 改善点について

協議会委員や活動団体の予定を調整し、今回2月の中旬の開催としたが、本事業で連携・協力いただいた大学関係者や大学生は大学受験と期末試験のため、ほとんど出席していただくことが叶わなかった。事業の総まとめとしてのシンポジウムであるため、どうしても2月・3月の開催になってしまうのだが、もう少し開催日時を考慮すればより多くの大学関係者・大学生に参加してもらえたのではないかと。

○取組3: 大学生との交流活動

(1) 体制整備に向けた取組の目標

大学生と外国人の交流のモデル活動を実施し、活動内容・成果を広く周知することによって、より多くの大学のネットワークを構築する。また、自治体・自治会関係者に活動を周知することで、自治体・自治会等と連携しながら新たな活動拠点を模索する。

(2) 取組内容

- ・将来外国人に関わるであろう国際関係や多文化共生、日本語教育の学科を持つ大学と連携し、大学生の活動グループを立ち上げる。
- ・大学生と外国人との訪問及びスカイプによる日本語での交流活動を実施する。
- ・大学生による夏季集中日本語教室及び交流活動を実施する。

(3) 対象者

外国人(小・中・高校学齢期相当生)日本人(浜松市内・及び近隣の大学生・大学院生)

(4) 参加者の募集方法

- ・国際関係・日本語教育・多文化共生の学科を設置している浜松市内、及び近隣大学に直接依頼
- ・チラシ配布
- ・外国人が多く住む団地にチラシポスティング

なつやすみ たいがくせい にい ねえ いっしょ しゅくだい にほんご べんきょう
夏休みに、大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に、宿題や日本語を勉強しましょう。

勉強のあとには、ゲームをして楽しい夏休みの思い出を作りましょう。

Los invitamos a estudiar japonés y hacer las tareas con estudiantes universitarios durante las vacaciones de verano. Después de estudiar, nos divertimos con juegos recreativos.
Convidamos a estudar o japonês e fazer as tarefas com estudantes universitários, durante as férias de verão. Após os estudos, nos divertiremos com jogos recreativos.

月 日: 8月3日(金) Viernes 3 de agosto / Sexta-feira 3 de agosto
13:00~16:00

¿Cuándo?: 8月28日(火) Martes 28 de agosto / Terça-feira 28 de agosto
13:00~16:00

Quando?: 8月30日(木) Jueves 30 de agosto / Quinta-feira 30 de agosto
13:00~16:00

対 象: ちゅうがくせい こうこうせい がいこくせきせいと
中学生・高校生の外国籍生徒

¿Para quiénes?: Alumnos extranjeros de secundaria (chuugakkou) y secundaria superior (koukou).

Público alvo?: Alunos estrangeiros do ginásio (chuugakkou) e ensino médio (koukou)

場 所: ムンド・デ・アレグリア学校
(浜松市西区雄踏町宇布見9611-1外国人学習支援センター2階)

¿Dónde?/Onde?: Colegio Mundo de Alegría / Colégio Mundo de Alegria
(Hamamatsu-shi Nishi-ku, Yuto-cho, Ubumi 9611-1, Gaikokujin-shien
Center 2^{do} piso)

内 容: 日本語・漢字の勉強
夏休みの宿題
ゲーム

¿Qué haremos?: Estudiar japonés y kanji / Estudar japonês e kanji

O que faremos?: Trabalhar las tareas de vacaciones / Trabalhar as tarefas de férias

Participar de juegos divertidos / Participar de jogos divertidos

定 員: 15名(各日)

Capacidad: 15 alumnos (por día) Capacidade: 15 alunos (por dia)



(5) 参加者の総数 58 人

(出身・国籍別内訳 日本 27人、 ブラジル 14人、ペルー 17人)

(6) 開催時間数(回数) 27 時間 (全12回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年7月3日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ペルー(7人)、ブラジル(1人)、日本(3人)	記事を元にコミュニケーション活動(スカイプ交流)	インターネットの記事の内容を読みながら理解しあう。最近若者の間で使われている言葉(例:ちょっとドジ、きゃびきゃびしている など)を共有する。
2	平成24年7月24日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	10人	ペルー(7人)、ブラジル(2人)、日本(1人)	自己紹介カード作成	名前だけでなく自分のことをいろいろ知ってもらうために自己紹介カードを各自作成する。
3	平成24年8月3日	3時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	ペルー(5人)、ブラジル(4人)、日本(7人)	サマースクール	公立小・中・高校に在籍している生徒対象に夏休み期間に日本語学習・大学生との交流活動を行う。
4	平成24年8月28日	3時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19人	ペルー(5人)、ブラジル(7人)、日本(7人)	サマースクール	公立小・中・高校に在籍している生徒対象に夏休み期間に日本語学習・大学生との交流活動を行う。
5	平成24年8月30日	3時間	ムンド・デ・アレグリア学校	10人	ペルー(3人)、ブラジル(3人)、日本(4人)	サマースクール	公立小・中・高校に在籍している生徒対象に夏休み期間に日本語学習・大学生との交流活動を行う。
6	平成24年10月16日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ペルー(5人)、ブラジル(4人)、日本(3人)	日本文化交流	百人一首や坊主めぐりで交流し、コミュニケーション活動を行う。
7	平成24年11月6日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ペルー(5人)、ブラジル(4人)、日本(3人)	記事を元にコミュニケーション活動(スカイプ交流)	お菓子(TV朝日お祝い! ランキングの記事)の記事を元にコミュニケーション活動を行う。
8	平成24年11月20日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	ペルー(7人)、ブラジル(5人)、日本(4人)	書道で交流	書道で交流活動行う
9	平成24年12月4日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	ペルー(6人)、ブラジル(5人)、日本(5人)	記事を元にコミュニケーション活動(スカイプ交流)	ペルーに関するチャート表、ゆるキャラに関する記事を元にコミュニケーション活動を行う。
10	平成24年12月18日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ペルー(5人)、ブラジル(5人)、日本(2人)	クリスマスとお正月	クリスマスやお正月の過ごし方の違いを話し合う
11	平成25年1月15日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ペルー(5人)、ブラジル(4人)、日本(3人)	記事を元にコミュニケーション活動(スカイプ交流)	「日本のお正月の習慣」という記事を元に、どんなお正月を過ごしたか話し合う
12	平成25年1月24日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	4人	ペルー(2人)、ブラジル(1人)、日本(1人)	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせグループの活動を見学し、お互いの国の絵本、小さい頃に読んでもらったお話などについて話し合う。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

大学生は子どもたちとの交流を通して、子どもたちの抱える問題を把握し、考えることができる貴重な機会となった。また、大学での専攻に関連の深い現場での交流活動は職場体験ともなり、彼ら自身のキャリア教育の役割も果たすことができた。

外国人の子どもたちは日本人とのコミュニケーションをとることで日本語運用能力を強化したばかりでなく、大学生とのコミュニケーションの中で自分の将来の進学について考える機会にもなった。

(10) 改善点について

大学生を生活者としての外国人の日本語教育の支援者として活用することは外国人にも、大学生にも双方に有意義なものである。しかしながら、大学のカリキュラムがすでに決定している今年度中に連携・協力をすることが叶わない現実もあり、来年度の連携・協力に向けて引き続き活動していきたい。

○取組4:絵本読み聞かせ活動・日本語交流活動

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域住民によるグループを立ち上げ、絵本読み聞かせ活動等をしながら、日本人と外国人の日本語交流活動を行う。交流活動を行うことにより、異文化理解・相互理解を促進させる。取組内容をシンポジウムで広く周知することにより、地域住民のさらなる活動への参加を促したり、他のボランティア団体との連携・協力を図る。

(2) 取組内容

地域住民で構成したボランティア団体を立ち上げ、絵本の読み聞かせ・日本語交流活動を行うことによって、外国人と地域住民が交流する機会を設ける。

(3) 対象者

年少者及びその保護者(外国人)、地域住民(日本人)

(4) 参加者の募集方法

外国人がよく行くスーパー・レストランにチラシ配布
年少者のいる家庭にチラシ配布

(5) 参加者の総数 140 人

(出身・国籍別内訳 ブラジル111人、ペルー26人、インド3人)

(6) 開催時間数(回数) 30時間 (全26回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年7月6日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	8人	ペルー(8人)	日本語交流活動	小麦粉から粘土を作って遊ぶ活動。日本語での指示を理解しながら、想像力をフル活用して物づくり体験。
2	平成24年7月13日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ブラジル(12人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	「おもちゃのチャチャチャ」歌遊び、手品を実施しながら日本語学習。
3	平成24年8月3日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	9人	ペルー(9人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	絵本読み聞かせ「あめだ あめだ くあつ くあつ くあつ」、「カエルの歌」合唱、ペットボトル・リボンを使った活動を実施。
4	平成24年8月10日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	15人	ブラジル(15人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「はらぺこあおむし」「ぐりとぐら」「へんしんコンサート」、指体操「さくらさくら」、「炭坑節の踊り」、「やらまいか体操」を実施。
5	平成24年8月24日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	14人	ブラジル(14人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「かさ さしてあげる」「まっくすのクッキー」「みんなのうんち」「はなのあなのほなし」「うなぎの呪文のダンス」「炭坑節」「やらまいか体操」を実施。
6	平成24年9月7日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ペルー(12人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「くだものさん」「どうぞの椅子」「サンドウィッチ」歌「バスごっこ」で山へピクニック、メリーゴーランド、リボン遊びを実施。
7	平成24年9月14日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	13人	ブラジル(13人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「きれいなほこ」「くだものさん」「らいおんとねずみ」、インツプ物語。マラカスなど音の出るものを使って虫の声を再現。ビー玉遊びを実施。
8	平成24年9月21日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19人	ブラジル(19人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	指体操「さくらさくら」、読み聞かせ「こぐまちゃんとうるせん」「こぐまちゃんとおぼー」「だあいすき」「うなぎの呪文のダンス」「わにわにのおふる」「てんとうむしのとん」「がちゃんがかちゃんどんどん」を実施。「やらまいか体操」を実施。
9	平成24年9月26日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	23人	ブラジル(21人)、ペルー(2人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	手品、歌「数字の歌」「手をたたきましょう」を実施。
10	平成24年10月5日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	13人	ブラジル(13人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	絵本読み聞かせ「はらぺこあおむし」、紙芝居読み聞かせ「わらしこいわつしよいふんふんふん」、歌「おにのパンツ」、絵描き歌「ソフトクリーム」「めがね」「芋虫から変身」を実施。
11	平成24年10月12日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ブラジル(11人)	日本語交流活動	指遊び・デカルコマニー
12	平成24年10月19日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19人	ブラジル(19人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	遊び「グーチョコキパーでなにつくろう」、読み聞かせ「ひらがなどうぶつ」「まいごのくまみつけた」「くまのこまのおうち」「あめふりくまのこ」を実施。
13	平成24年10月26日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	9人	ペルー(9人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	歌「ラ・カラチャ」、仕掛け絵本読み聞かせ「くだものさん」、ミニ劇場「どんぐりころころ」を実施。
14	平成24年11月2日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	14人	ブラジル(14人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「さるじぞう」、「ゆうき100%」の歌に合わせて踊る、忍者の動き(木、壁、石、泳ぐ)を導入
15	平成24年11月7日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	15人	ブラジル(15人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	紙芝居 日本民謡「まっくろけのうし」の読み聞かせを実施。
16	平成24年11月16日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ブラジル(11人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	体操「さくらさくら」「やらまいか体操」「うなぎの呪文のダンス」、読み聞かせ「へんしんコンサート」「へんしんコンサート」、紙鉄砲づくり、紙風船遊びを実施。
17	平成24年11月30日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	14人	ブラジル(14人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	「お話しつり箱」制作、輪唱「カエルの歌」、紙芝居読み聞かせ「カエルの旅行家」、「ふれあい園芸」を実施。
18	平成24年12月7日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	14人	ブラジル(14人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	絵本読み聞かせ「ぐりとぐら」、手遊び「むすんでひらいて」「ぐーしょきぼーでなにつくろう」
19	平成24年12月12日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ペルー(8人)、インド(3人)	日本語交流活動	手品、歌「手をたたきましょう」
20	平成24年12月21日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ブラジル(11人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	絵本読み聞かせ「ころちゃんのおさんぽ」、歌「みかんのうた」、折り紙
21	平成25年1月18日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	11人	ブラジル(11人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「ひとつぶのおこめ」、縄抜けゲーム
22	平成25年1月25日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	9人	ブラジル(9人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「オニたいじ」、鬼のタンゴを踊る、折り紙
23	平成25年2月1日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	13人	ブラジル(13人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「ももたろう」、鬼のパンツを踊る、絵描き歌
24	平成25年2月8日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	12人	ブラジル(12人)	エブロンシアター	エブロンシアター「だいこんがしろいわけ」、歌「これくらいのお弁当箱に」
25	平成25年2月15日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	9人	ペルー(9人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「月刊かがくのとも 3 きょうりゅうのおおきさつでどれくらい?」「こどもずかんMIO きょうりゅう」、「ほんとおおきさ恐竜博」、紙芝居「きょうりゅうのラーメン」、恐竜体操
26	平成25年2月20日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	18人	ブラジル(18人)	絵本読み聞かせ・日本語交流活動	読み聞かせ「まほうのふで」、「よいしょよいしょ」、紙芝居「お菓子だいすき食いしん坊王様」

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

普段ほとんど外国人と関わることのない地域住民も外国人と関わりを持ちたいと思っ
てはいても、何をすればいいのかわからないという人が少なくない。そこで、地域住民に
絵本読み聞かせボランティア団体の設立を呼び掛けた。最初は、初めて接する子ども
たちに日本語でどのように活動していいかとまどっていた方々も、次第に日本人、外国
人という垣根が取り払われていった。子どもたちも絵本や紙芝居、手遊びや歌などで
楽しみながら日本語に接することによって日本語への興味が増していった。また、協議
会で活動内容を共有後は活動団体相互の連携・協力もでき、さらにシンポジウムにお
いて活動を発信することで、活動に参加したいという声も聞くことができた。

(10) 改善点について

保護者にも参加してもらって絵本の読み聞かせをする機会が少なかったなので、もっと保
護者にも参加を促していきたい。親子で参加することによって、さらに日本語に対する
興味が増したり、絵本を媒体として、日本人と外国人の交流機会を増やすことができる。

○取組5:地域住民との交流活動

(1) 体制整備に向けた取組の目標

自治体・自治会・地元で活動するボランティア団体と連携・協力することによって地域に
生活する日本人と外国人が交流できる機会を創出する。また、異文化ゆえの誤解を招く
ことをできるだけ少なくし、日本人と円滑なコミュニケーションがとれるように日本の文

化・習慣・マナーを学ぶ機会も創出することで多文化共生に寄与する。

- (2) 取組内容
文化活動・防災訓練等を地域住民と共に行うことで、日本語習得・相互理解を行う。
- (3) 対象者
定住外国人・地域在住日本人
- (4) 参加者の募集方法

TALLER PARA LOS RESIDENTES EXTRANJEROS EN CASOS DE EMERGENCIA

TREINAMENTO PARA OS RESIDENTES ESTRANGEIROS EM CASOS DE EMERGÊNCIA

Lugar: Colegio Mundo de Alegría

Local: Colégio Mundo de Alegria

Fecha y hora: 14 de enero de 2013,

desde las 14:00 h a las 15:00 h

Data e horário: 14 de janeiro de 2013,

das 14:00 h as 15:00 h

En este taller, aprenderemos:

Neste treinamento, aprenderemos:

1. ¿Qué es un terremoto? ¿Cómo ocurre?
O que é um terremoto? Como ocorre?
2. ¿Cómo podemos actuar en casos de terremoto (en casa y fuera de casa)?
Como podemos proceder em casos de terremoto (dentro e fora de casa)?
3. ¿Cómo podemos prepararnos para un terremoto (en casa y fuera de casa)?
Como podemos nos preparar para um terremoto (dentro e fora de casa)?
4. ¿Cómo podemos comunicarnos con familias y amigos en casos de emergencia?

Como podemos nos comunicar com familiares e amigos em caso de emergência?

5. Haremos un *hinan card*, una tarjeta con datos e informaciones esenciales para casos de emergencia.

Faremos un *hinan card* (cartão segurança) contendo dados e informações essenciais para casos de emergência.

(5) 参加者の総数 284 人

(出身・国籍別内訳 日本27人、ブラジル178人、ペルー75人、インド4人)

(6) 開催時間数(回数) 29 時間 (全 22 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年7月10日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	60人	ブラジル(39人)、ペルー(21人)	講習会	薬物使用防止のためのワークショップ。薬物の危険性を学び、日本で生活するうえでのルールやマナーを身に付ける。
2	平成24年7月26日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	42人	日本(4人)、ブラジル(17人)、ペルー(21人)	防災訓練	消火訓練活動。火災の際の注意点、消火器の使い方、通報の仕方を学習
3	平成24年8月30日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	32人	ブラジル(18人)、ペルー(14人)	防災訓練	地震、津波を想定しての避難活動。地震が起きた時の行動を確認し、避難指示の日本語を学習
4	平成24年8月30日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	16人	日本(5人)、ブラジル(5人)、ペルー(2人)、インド(4人)	文化交流	日本の盆踊りである「おてもやん」とブラジルの代表の「サンバ」を融合させた「サンバおてもやん」の踊りを練習
5	平成24年8月31日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	40人	日本(9人)、ブラジル(16人)、ペルー(11人)、インド(4人)	文化交流	日本の伝統の夏祭りを体験 日本語を使っのやりとりや、踊りやゲームなどを楽しみながら異文化交流を行う。
6	平成24年9月17日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	55人	ブラジル(44人)、ペルー(11人)	防災訓練	避難訓練。地震と津波発生を想定して、屋上へ避難。日本語で避難指示を聞き取る練習
7	平成24年10月3日	1時間	浜松市内	59人	日本(2人)、ブラジル(36人)、ペルー(17人)、インド(4人)	講習会	標識や信号などの交通ルールに関する語彙を学び、実際道路に出て、危険箇所の確認、歩行の際の注意事項を意識して実践(歩道を歩き、横断歩道を渡る。)
8	平成24年10月25日	1時間	浜松市内	16人	ブラジル(16人)	文化交流	稲刈りの仕方を日本語で学習し、稲刈り体験。また、稲を使った昔からの遊びを体験。
9	平成24年10月25日	2時間	浜松市内	23人	日本(1人)、ブラジル(22人)	文化交流	日本語を使って羊刈りの仕方を教わり、体験。体験を通じ、日本語でのコミュニケーション方法を学ぶ。
10	平成24年10月29日	1時間	雄踏グランド	26人	ブラジル(14人)、ペルー(12人)	講習会	交通安全教室 日本社会において自転車で行く際のルール・マナーについて学び、短いコースを作り、実践。
11	平成24年11月5日	1時間	雄踏グランド	28人	ブラジル(17人)、ペルー(11人)	講習会	交通安全教室 日本社会において自転車で行く際のルール・マナーについて学び、短いコースを作り、実践。
12	平成24年11月20日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	47人	ブラジル(36人)、ペルー(11人)	講習会	講習を通じ、日本で生活する上で税金が自分たちの生活にどのように関わっているのかを知る。
13	平成24年11月23日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	19人	ブラジル(12人)日本(6人)、ペルー(1人)	文化交流	書道体験を通じ、日本文化を学ぶ。また、漢字の意味、筆順、とめ・はらいなどを意識し書く。
14	平成24年11月23日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	6人	日本(1人)、ブラジル(3人)、ペルー(2人)	文化交流	着付け体験を通じ、日本文化を学ぶ。素材の名前や、柄の名称などを紹介。
15	平成24年11月25日	2時間	雄踏文化センター	8人	ペルー(8人)	文化交流	各国のダンスを披露・体験することで異文化理解を深める
16	平成24年11月29日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	24人	ブラジル(14人)、ペルー(10人)	防災訓練	冬に地震、津波が起きたことを想定しての避難活動。地震が起きた時の行動を確認し、避難指示の日本語を学習。
17	平成24年12月20日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	33人	ブラジル(16人)、ペルー(17人)	防災訓練	冬に地震、津波が起きたことを想定しての避難活動。地震が起きた時の行動を確認し、避難指示の日本語を学習。
18	平成24年12月23日	2時間	ムンド・デ・アレグリア学校	20人	ブラジル(5人)、ペルー(10人)、日本(5人)	文化交流	浜松の和太鼓チームと一緒に、和太鼓を始めとした様々な楽器を組み合わせ、浜松祭りの「激練り」をベースにしたオリジナル曲を演奏。
19	平成25年1月14日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	4人	ブラジル(1人)、ペルー(3人)	講習会	地震発生時の家族間での避難場所確認・避難カード作成。
20	平成25年1月17日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	24人	ブラジル(12人)、ペルー(12人)	防災訓練	通勤・通学の時間帯に地震、津波が起きたことを想定しての避難活動。地震が起きた時の行動を確認し、避難指示の日本語を学習。
21	平成25年2月11日	1時間	ムンド・デ・アレグリア学校	21人	ブラジル(11人)、ペルー(10人)	防災訓練	冬に地震、津波が起きたことを想定しての避難活動。地震が起きた時の行動を確認し、避難指示の日本語を学習。
22	平成25年2月14日	1時間	雄踏文化センター	12人	ペルー(12人)	文化交流	民族舞踊の衣装・ダンスの意味などを日本語で紹介することで、地域の方との相互理解を深める

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



左) 稲刈りの仕方を日本語で学習。また、刈った稲を使った昔ながらの遊びを体験。

右) 防災ワークショップ。インターネット災害伝言サービスを紹介後、避難カードの作成。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

文化体験を通して楽しく日本語でコミュニケーションをとることができた。

消火訓練・防災訓練・講習会においては自治体・自治会と連携協力しながら実施することができた。また交流活動においても地元ボランティア団体と連携しながら、計画・実施することができた。

(10) 改善点について

土曜日・日曜日、或いは夜間に活動を開催できる施設が少ないため、平日仕事をしている外国人に参加を促すことが難しい状況である。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

本業務は、地域の一員として生活する定住外国人等を対象に、自治体をはじめ多くの機関との連携により、日常生活に必要な生きた日本語に触れ、実践的日本語を学習できる機会を提供する。また、地域住民を対象に、外国人と交流できる機会を創出し、多文化共生に寄与する。そして、本業務の取組をシンポジウムにおいて広く地域に発信することにより、多文化共生への理解を深めさらなる地域の日本語教育体制を整備・推進することを目的とする。

(2) 事業目的の達成状況

外国人には、日本語を使ってコミュニケーションをとる機会の提供、日本人には、日頃外国人と関わることの少ない人たちに、外国人と交流する場を提供することで、多文化共生の推進を目的とし、今年度事業実施にあたり、大学と地域住民に呼びかけ、大学生グループと地域住民による絵本読み聞かせグループの2つの活動団体の設立をお願いした。各グループが活動し、協議会で活動内容を共有することで、活動団体同士の連携・協力体制もでき、自治体・学校関係者からご意見・アドバイスを踏まえ、さらに活動を充実することができた。今年度は事業実施する中で、自治体・自治会との連携体制を構築するだけでなく、活動団体同士の草の根レベルでの連携体制も構築することができた。そして、取組についてはシンポジウムにおいて地域住民の方々に発信し、広く理解を得ることでさらなる活動の充実・広がりが期待できる。

(3) 地域における事業の効果, 成果

本事業のために設立したグループの地域住民や大学生が活動を通して、お互いに異文化理解、相互理解を進めることができ、活動者から外国人が少し身近に感じられ、外国人と関わることを難しく考えていたが、そうではないと感じられよかったという感想を得られたことは本事業の大きな成果である。

(4) 改善点, 今後の課題について

シンポジウムのアンケート結果でもあるように、活動の場があれば、何かをしたいと思っている地域住民の方々が少なくない。今年度立ち上げていただいた絵本読み聞かせグループのように、地域住民のマンパワーを生かすことができるような機会を多く創出し、より多くの人に外国人と関わってもらうことが必要である。

i. 現状

シンポジウム開催により、外国人と関わりを持ちたいと思っている地域住民が少なくないことが改めてわかった。今年度、大学生による交流グループ、地域住民による絵本読み聞かせグループを設立・活動してきたが、まだまだ活動できる受け皿やネットワークの構築が十分でない。特にシニア世代が関わることのできる活動現場が少ない。

ii 今後の課題

- ① 今年度モデル活動として実施した「大学生との交流活動」の取組の活動を充実・拡充させるために、本事業での成果を多くの大学に発信することによって、より多くの大学間の連携体制の構築を図ると同時に、交流活動がゼミ活動として認められたり、実習として認められたりというように、学生がより活動に参加しやすい体制整備を考えていく必要がある。例えば、現在小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得するためには、盲・ろう・養護学校及び社会福祉施設において7日間の介護等体験を実施することが義務付けられている。外国籍児童の多い学校、或いは外国人学校での体験学習もこの介護等体験の中に含まれれば大学生にとってもいい経験になるのではないか。
- ② シンポジウムのアンケート結果では、地域住民の方々も活動の場があれば参加したいと思っている人が少なくない。同じ地域に在住する方々のマンパワー（特にシニア世代）をどのような形で有効に活用させてもらうことができるかを考え、活動機会を創出していくことが今後の課題でもある。草の根レベルでの活動の広がりが、外国人と地域住民との繋がりを形成していき、市の施策でもある多文化共生に寄与していくことになる。

iii 今後の活動予定

絵本読み聞かせ活動—児童から保護者へ繋がる活動の機会の創出

大学生との交流活動—今年度連携打診を行った大学との連携体制の構築

絵本読み聞かせグループとの連携による絵本創作活動

地域交流活動—新たな活動機会の創出